

# 報 告 書

令和8年2月24日

座間市議会議長

松 橋 淳 郎 殿

新政いさま 団長

京 免 康 彦

荻 原 健 司

美 濃 口 集

大 矢 新一郎

次のとおり報告します。

- 1 視察日時 令和8年1月21日（水）～1月22日（木）
- 2 視察先
  - （1）奈良県宇陀市
  - （2）奈良県大和郡山市
- 3 視察項目
  - （1）地域公共交通計画について
  - （2）リノベーションまちづくりについて
- 4 概 要 別紙のとおり

令和8年2月20日

座間市議会議長

松橋淳郎 殿

新政いさま

京免康彦

## 視察所感

### (1) 地域公共交通計画について

本視察では、宇陀市におけるデマンド型交通の導入経緯や利用実態、更には実証実験から本格導入に至るプロセスについて詳細に確認した。

同市においては、人口減少と高齢化の進展により、従来型の定時定路線バスでは採算性・利便性の双方に課題が生じており、これに対応する形でデマンド交通へと転換が図られている。特に、利用者ニーズに応じた柔軟な運行形態は、交通空白地帯の解消に一定の成果を上げている点で評価できる。

一方で、利用者数の伸び悩みや運行コストの増大といった課題も明確に存在しており、制度としての持続可能性をいかに担保するかが重要な論点であると感じた。とりわけ、コミュニティバスとの役割分担や、利用促進に向けた住民理解の醸成が不可欠である。

本市においても、交通弱者対策は重要政策であるが、単なる「導入ありき」の議論ではなく、どの範囲を行政が責任を持つのか、どの水準まで公費を投入するのか、KPIをどのように設定し検証するのかといった政策設計を明確にした上で検討を進める必要がある。

単なる実証実験の繰り返しではなく、「本格導入を前提とした制度設計と財源の裏付け」が不可欠であると強く認識した。

### (2) リノベーションまちづくりについて

大和郡山市におけるリノベーションまちづくりは、遊休不動産の活用を通じて民間主体のまちづくりを促進し、エリア価値の向上と地域経済の活性化を図るものである。

特に、リノベーションスクールや民間事業者との連携を通じて、実際に事業化へとつなげている点は、従来の行政主導型施策とは一線を画すものであり、高く評価できる。これは単なる施設整備ではなく、「人材育成」と「関係人口の創出」を同時に進める政策として機能している。

しかしながら、こうした取組は、地域におけるキーパーソンの存在や民間の熱量に依存する側面が強く、再現性という観点では慎重な検討が必要である。また、成果の評価について

も、個別事例の成功にとどまらず、エリア全体の経済効果や定住人口への影響など、客観的指標による検証が求められる。

さらに、行政の関与の在り方については、「民間に委ねる」とことと「行政責任を果たす」ことのバランスが極めて重要である。補助制度や支援策の設計においても、単発的支援ではなく、継続的なエコシステムの構築が必要であると感じた。

本市においても、空き家・空き店舗対策として本手法の導入余地はあるが、担い手の育成、地域資源の棚卸し、成果指標の明確化を前提とした制度設計が不可欠である。

単なる事例導入ではなく、「持続可能なまちづくりモデルとして成立させる視点」が求められる。

令和8年2月23日

座間市議会議長

松橋淳郎 殿

新政いさま

荻原健司

## 視察所感

### (1) 地域公共交通計画について

本市においても、コミュニティバスの運行に対する様々な御意見や課題があることは承知しており、そうした中、様々な工夫を重ねながら課題解決に取り組んでいただいている所管課には頭が下がる思いであり、何かヒントが得られればという思いから宇陀市を視察先選ばせていただいた。

伺ってみて、改めて地域ごとの課題というのは一様ではないのだと深く認識した。

宇陀市は4町村が合併してできた自治体で、市域が広大であることに加え、鉄道駅までの距離が遠く、自動車が欠かせない地域性であること。

そうした状況であることから、路線バスの収益性が見込めず定着しないということ。

これらの課題は、人口減少の大きな要因の一つであるということで、地域公共交通計画を実施しているということであった。

住民の年齢別人口比率は、65歳以上の高齢が市全体で44.3%という超高齢社会が進んでいる。

こうした課題を解決するために本市でも実施している「コミュニティバス」に加え、「市有償バス」「市営有償バス」「デマンド型タクシー」「タクシー利用補助」「公共ライドシェア」などの施策を行い補完されている。

市有償バスは、民間事業者に委託して定時定路型の運行がされており、市立病院や商業施設などを経由。

市営有償バスは、事前予約した住民が自宅から目的地に移動する支援を行い、有償ボランティアが運転手を務める。目的地となる停留所はスーパーや病院、道の駅などの施設となっている。

こうした移動支援に加え、いわゆるライドシェアといったマイカー乗り合い公共交通サービス「ノッカルおくうだ」というサービスが展開されている。

デマンド型乗り合いタクシーやマイカー乗り合い公共交通サービスなど、便利と思える反面、本市における導入にはハードルが高いと感じた。

ただし、県との関係は良好とのことで、今後は奈良県と宇陀市が連携した「宇陀市モデル」のような事業を確立し、全国に広げていただくことを期待したい。

## (2) リノベーションまちづくりについて

空き店舗等を活用した事業の一つであるリノベーションまちづくりを学ばせていただいた。

行政視察にて説明を受けるに当たり、内容を熟知し思いをもって対応する職員の方々による説明は、受けるこちらとしてもすんなりと理解できるし、聞いていて気持ちの良いものであると常々感じているが、今回の大和郡山市の事業も、地元に対する熱い思いと事業に対する熱意を感じ、大いに刺激をいただいた。

同事業は2019年からスタートしたとのことで、既に多くの取組が重ねられている。

そのビジョンは

- ・地域資源（今ある空き家や公共空間）を活かして、新しい使い方でもちを変化させていく
- ・行政主導のまちづくりの考え方自体を変革するムーブメント

をコンセプトに、取り組まれている。

エリアを設定し「まちを楽しむ少数派を応援しよう」という、行政としてはチャレンジ色の強い取組を実施し、民間と行政それぞれから人員を集め、積極的にコミュニケーションをとって進めたことが正解であったとのこと。

特に印象的だったのは「行政が仲介する安心感」というもので、奈良県という土地柄なのか行政に対する市民の信頼感が強いということに感銘を受けた。本来、行政＝安心というのは当たり前の観念であるはずのものが、近年では薄らいでしまっているのではないかと改めて気付かされた次第だ。

現地にて視察させていただいた店舗にも大きな魅力を感じ、訪問した店舗の主人に話を伺うと、市職員の皆さんと同じく、異口同音に地元愛を語られており、まちづくりに欠かせない要素であることを再認識できた。

視察後、議会事務局次長並びに職員の御案内で、郡山城で当日から開催されていた「展覧会 秀長と郡山のあゆみ」を拝観させていただいた。

その際、NHKの取材が入っていたことから上田市長にもお目にかかることができ、大変有意義な時間を過ごすことができたことに、心から感謝申し上げたい。

NHK大河ドラマ「豊臣兄弟！」所縁の自治体ということで、町全体に活気を感じた。

歴史ある町並みや、過去に報道で目にした記憶のある「金魚の町」を生で感じる事ができた今回の視察は、限られた時間だけでは堪能することができない自治体の魅力を感じ、改めてプライベートなどで訪問したいと強く感じた。

余談になるが、甘利代議士の秘書時代に読んだ堺屋太一氏著「豊臣秀長（ある補佐役の生涯）」という書籍の主人公豊臣秀長は「目利き」「耳聡（い）」「忠誠心」をもって、兄

である関白秀吉公を天下人にならしめた人物として、大河ドラマで描かれるであろう武将であり、大和郡山市に思いを馳せながらドラマも楽しみたいと思う。

令和8年2月14日

座間市議会議長

松橋淳郎 殿

新政いさま

美濃口 集

## 視察所感

### (1) 地域公共交通計画について

宇陀市の地域公共交通計画は、急速に進む人口減少と高齢化を背景に、「移動の確保」をまちの持続性と直結する重要課題として捉えた実効性重視の計画であると感じました。自家用車依存が高い地域特性の中で、免許返納後の高齢者や交通弱者の生活をどう支えるかという視点が明確であり、単なる交通再編にとどまらず、福祉や地域活性化と一体化した政策設計がなされている点は素晴らしいと感じました。特に、路線バスや鉄道の維持を前提としつつ、デマンド型タクシーや市営有償バス、更には住民参加型の公共ライドシェアなど多様な移動手段を組み合わせる「重層的な交通体系」を志向している点が特徴的でありました。限られた財源と担い手の中で、地域の実情に応じた最適化を図ろうとする姿勢は現実的であると感じました。一方で、計画の成否は市民の利用促進、運行の効率化、財政負担の抑制にかかっており、持続可能性を高めるためには、PDCAによる継続的な検証と、行政・交通事業者・住民が当事者意識を共有する協働体制の深化が不可欠であると感じました。本市でも新たな交通網の確立に向けて議論していきたいと思いました。

### (2) リノベーションまちづくりについて

大和郡山市のリノベーションまちづくりは、歴史資源と既存ストックを活かしながら、民間主導でエリア価値を高めていく点に大きな意義があると感じました。城下町としての風情や町家、空き店舗といった不動産を単なる課題として捉えるのではなく、「可能性ある資源」として再構築する発想は、人口減少時代の地方都市に適した戦略であると感じました。特に特徴的なのは、行政が前面に立って整備する従来型の再開発ではなく、民間事業者や地元プレイヤーが主体となり、小規模・分散型で事業を積み重ねる点でありました。これにより初期投資やリスクを抑えつつ、飲食店や交流拠点、コワーキング機能などが点的に生まれ、まち全体の回遊性や滞在時間の向上につながっていると感じました。一方で、持続的な発展のためには、事業者同士の連携強化や次世代の担い手育成が不可欠であり、リノベーションを単発の流行で終わらせず、地域経済循環を生み出す仕組みへと昇華できるかが、今後の成否を左右すると考えますが、本市においても参考にし、議論していきたいと思えます。

令和8年2月20日

座間市議会議長

松橋淳郎 殿

新政いさま

大矢 新一郎

## 視察所感

### (1) 地域公共交通計画について

奈良県宇陀市は、4町村合併により247.50平方キロメートルもの広大な市域を擁している市です。近鉄大阪線の駅が市内に3駅あり、駅へ向かう路線バスもあるものの乗客数の減少に伴い、廃止路線となるなど地域内公共交通の不足が課題となっていました。そのため、民間バス路線を補完する形で、地域に合わせて様々な地域公共交通の施策がなされていました。一つ目は民間交通会社と業務委託を行い、利用者の予約に応じて経路選択をして運行するデマンド型乗合タクシー。二つ目は地域のボランティアが主体となって運行する有償バス。三つ目は県内初となるマイカーを使った公共交通サービス「ノッカルおくうだ」。こちらは実証実験の最中ですが、住民同士の助け合いをもとに運行されています。コミュニティバスも運行しており、タクシー利用の補助もあります。これらは市内全域をカバーするのではなく、地域ごとの特性に合わせて、すみ分けをして運行されており、地域の实情に沿った公共交通となっています。課題についても説明をいただきましたが、ドライバーの確保と利用者の推移についてはしっかりと対応していく必要があると感じました。説明の中で、ニーズと利用が必ずしも一致していない部分もあるとの話もあり、本市の地域公共交通は今後どのようになっていくべきなのか、しっかりと検討していく必要があると視察を通して感じました。

### (2) リノベーションまちづくりについて

奈良県大和郡山市は郡山城の城下町として栄え、近鉄郡山駅周辺市街地には古い町割りが今も現存しています。郡山は豊臣秀長ゆかりの地であり、今年には特に注目の市、また金魚の産地としても有名な市です。そのような大和郡山市では城下町エリアの空き家を対象に地域資源を生かすリノベーションまちづくりを、2019年から行っています。まちを楽しむ少数派を応援しようとのコンセプトのもとに取り組み、最終的には多数派が共感するゴールを目指しています。少数派の意見をもとに地域・まちづくりをしていくのは大胆な発想と感じますが、まちの現状と未来をしっかりと分析した上で取り組まれており、なるほどと感じました。当初はリノベーションスクールを開催し、講師のもと実在する空き家を題材に受講

生がアイデアを出し、オーナーに提案をるところまでを行い、実際に提案が実現し、3件の事業化がなされたとのことでした。現在はリノベーションカレッジに形を変えるとともに、スクール受講生が立ち上げた大和郡山まちづくり株式会社と連携をしながら、事例を少しずつ増やし、まちの活性化に向けて着実に歩を進めていると感じました。実際にリノベーションをされた実店舗も見学させていただき、町並みを大切にしながら創意工夫された空間演出と事業経営をされていました。本市だけではなく、全国的にも増加傾向にある空き家ですが、行政と民間企業、地元商工会や地元金融機関等と密な連携をとることで、それぞれの課題、得意不得意を補完しながら事業を行うことで、新しいまちづくりのムーブメント、諸課題が解決に向けて動き出していくのだと今回の視察を通じて学び直しました。